

中等習字教科書

中

K220.72
69
2

K220.72

69

2

弘道館編輯部編

中等國語教科書

中

玉木愛石 淨書

皇統連綿萬世

中一

一系天壤無窮

政治法律經濟

中
二

軍事交通衛生

產業學問教育

中三

宗教文學美術

少年易老學難成

中四

一寸光陰不可輕

未覺池塘春草夢

中五

階前梧葉已秋聲

陽氣發處金石亦透

中六

精神一到何事不成

君子は人の美を成し人の悪
を成さず小人は是に反す

業は勤むるに精しく嬉むに
荒み行は思ふに成り随ふに毀る

謹啓拜啟貴翰拜誦

中八

高堂拙宅清榮健勝

慶賀欣喜省慮休神

中九

光未推參依賴周旋

面倒迷惑希望懇願

中
十

結構頂戴恐縮萬謝

輕少失禮手數都合

中十一

遺憾殘念披露吹聽

返却通知猶豫容赦

中十二

見舞挨拶紹介案内

執事侍史視北膝下

親展貴劄教具頓首

刃利なりと雖も礪かざれば断せず
材美なりと雖も學ばざれば高からず

蓬麻中に生ずれを扶けざして自ら直し
白沙縮中に入れば深めずして自ら黒し

江天暮雪瀟湘夜雨
山市晴嵐煙浦歸帆

中十五

遠寺晚鐘平沙落雁
漁村夕照洞庭秋月

誰かしのあはれをいふは
誰かしのあはれをいふは

言ふ事ふ旅の連続の事
言ふ事ふ旅の連続の事

日中にも漸く午度候も過ぎぬ
中へ急ぐ如く候へば候へば候へば

美千の着衣を準備の致しは未だ
時言柄打角は自おの娘を初め候

何以路乃波之各不有海印屋
空知有里如乃法意哉和日可

系之代意多心进名於法法手
福亦礼屋其舞字之井乃此於

皇之冠乃滿帶今世不事婦女
大江卷之轉亭安阿世行義文

中其

規遊由免美見志直南玉心之
母衣衣衣世勢長以壽

武士の志を立つるふことのよき
教たをしる那波の志の原

いそがずばぬれがさしを旅人の
あふより晴るる聖路のおる

これほくとぼり

白雲

花の吉野山

中
共
一

吉池や蛙

むせ

飛びこむ水の音

中等習字教科書 中ノ巻

少年易老學難成。一寸光陰不可輕。未覺池塘春草夢。階前梧葉已秋聲。（朱子）
陽氣發處金石亦透。精神一到何事不成。（朱子）
君子は人の美を成し人の惡を成さず小人は是に反す（論語）
業は勤むるに精しく嬉むに荒み行は思ふに成り隨ふに毀る（韓愈）
劍利なりと雖も彌かざれば斷せず材美なりと雖も學ばざれば高からず（韓詩外傳）
蓬廡中に生ずれを扶けせして自ら直し白沙細中に入れば染めずして自ら黒し（論衡）

江天暮雪。瀟湘夜雨。山市晴嵐。煙浦歸帆。遠寺晚鐘。平沙落雁。漁村夕照。
洞庭秋月。（蕭淵八景）
武士の矢並つくるふこ手の上を霞たをしる那須のまの原（源實朝）
いそがすばぬれざらましを旅人のあとより晴るゝ野路の村雨（天田持茂）
これはくとはあり花の吉野山安原貞室
古池や蛙飛びこむ水の音（松尾芭蕉）

2022.7

大正丙辰高秋

書不字考



江川八左衛門刻

大正五年十月廿三日
大正五年十月廿五日
印刷發行

定價各冊金拾八錢

編纂者 弘道館編輯部
書者 玉木本三郎
發行兼印刷者 辻本卯藏

複製
不許

發行所

東京市神田區北神保町十一番地
振替口座東京八一五番

弘道館

